

史談会市外史跡見学会初参加の記

石川 文夫

花時計広場の史談会旗のもとに集合、八時出発。犬飼経由で十時前岡城跡に到着、資料を片手に指導の先生の案内で大手門跡への坂道を上る。早速先生からの指摘。坂道に一定の間隔で埋められた段石が斜めなのは、滑り止めと、流れる水を側溝に流す工夫で、道路はしの石塀の蒲鉾型の笠石とともに岡城跡特有のものだと。研修会参加の意義をまず実感。

大手門跡では左右の石垣、城門の土台の敷石とその切り込み、扉の開閉を容易にする半円の石のみぞの工夫など、全く初耳の事実を学ぶ。大手門の東に古大手門。東からの敵の攻めに不利との加藤清正の進言で現在の位置に大手門を造り替えたとの説。

本丸、二の丸、三の丸、西の丸、家老屋敷跡。長子を西の丸に、他の三人の息子を家老として城内の家老屋敷に住ませた名君の話など詳細な説明を受け、近戸門跡を経て岡城跡から坂道を下り竹田の町並みに向かう。当日は「竹楽」の最終日、ぼんぼり用の斜切りの竹筒に迎えられ屋台を横目に歴史資料館に入り古代からの竹田の歴史を学ぶ。明治元年の岡

城の写真が展示されており、取り壊される前の面積が国内最大と言われる往時の岡城の雄姿に心打たれる。明治維新での多くの城の取り壊し、廃仏段積など歴史、政治の重みを改めて感じる。田能村竹田の作品を鑑賞できて幸いだった。

滝廉太郎記念館をへて坂道を上り国指定重要文化財の愛染堂の優れた構造の宝形造、愛染明王をはじめ多数の優美な仏像を拝し、裏山の林をぬけて稲葉川を見下ろす坂道を下り豊後竹田駅前に到る。稲葉川・白滝川を天然の外堀とした岡城はほぼ垂直に数十米の高さに築かれた美しい石垣に代表される石の文化遺産でもあり築城にたずさわった人々の技と努力の結晶であると感じた。

「あざみ台」のあざみは「字見台」、字(あざ)を見渡すに由来するとか、新知識をえて帰途につく。充実した研修の機会に感謝、感謝。



文化財課 佐伯治氏